

歴史研修会

秋津洲の道を訪ねる

9月24日に歴史文化クラブ研修会を行いました。当日は台風16号の影響で雨の心配もありましたが、歴史晴れ男の威力で一滴の雨にも見舞われず、21名の参加で無事完了しました。

行程は近鉄奈良駅→吉祥草寺→水平社博物館→神武天皇社→三光丸資料館→掖上罐子塚古墳→條ウル神古墳→日本武尊白鳥陵→孝安天皇陵→一言主神社→飯豊天皇陵→近鉄奈良駅で、生駒交通のバスにお世話になりました。

往路バスで川井代表から御所市の歴史について講義がありました。御所の地名の由来、難読地名の読み方、役行者所縁の吉祥草寺、役小角の母「刀良売」と金色の蛙、「蓮取り」行事など、1時間はアツと言う間で最初の目的地吉祥草寺に到着しました。

門前で集合写真を撮り、寺内を拝観しました。



金堂には役行者像や行者が使っていた錫杖(復元)などがあり、手にとって重さを実感していました。

柏原は差別の無い社会を目指した水平社発祥の地で水平社博物館を見学し、直ぐ横の神武天皇社を訪ねた。神武天皇が即位したのは橿原市ではなく、御所市の柏原だとする説があり、里の北西に143mの本馬山があり、神武天皇が腋上の嚙間(ほま)丘に登って、国見をしたとの説があります。

直ぐ近くに嚙間神社があるとのことで、探し回って漸く見つけました。



バスで三光丸資料館に向かいました。館長の浅見さんと2名の職員の方から資料館の案内をして頂き、後醍醐天皇の命名で「三光丸」となったお話しや丸剤の製造方法などを伺った後、美しいお庭で昼食を取りました。

5世紀から6世紀にかけてこの地域を支配していた豪族は、葛城氏、巨勢氏などで、彼らの王の墓と見られる巨勢山古墳群があります。

掖上罐子塚古墳は5世紀後半の大きな前方後円墳(150m)、條ウル神古墳は発掘が未了ですが大きな石室と8個の縄掛け突起を持つ家形石棺で有名、日本武尊白鳥陵(三重県亀山市の能褒野、御所市の琴弾原、羽曳野市古市、白鳥となってどこかへ飛び去る)、孝安天皇陵(第6代天皇陵と治定)などを巡りました。

秋津洲は日本の古来名(古事記や日本書紀)で、神武天皇が国見山から一望してトンボ(秋津)のようだとやったことが由来とされています。

ここからはオプションで、彼岸花の咲き誇る一言主神社へ参拝しました。一言主は願い事を一言のみ叶えてくれる様ですが、皆さんは何をお願いされたのでしょうか。彼岸花と稔りの稲穂のコントラストがきれいでした。



負傷欠場の古川さんをご執心だった飯豊天皇(皇統譜には記載されていませんが、日本最初の女帝で第22代清寧天皇没後、第23代顕宗天皇即位までの10ヶ月間、政に臨んだ)の御陵・葛城埴口丘陵に参拝した。

女帝誕生の詳しい話を岩本先生から頂きました。

無事奈良に帰った後の反省会も大変盛り上がったとか。

(坂東久平)